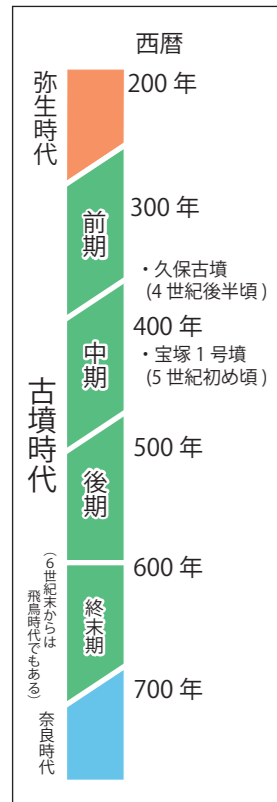


【三角縁神獣鏡が見つかった「久保古墳」】



皆さん、三角縁神獣鏡をご存じですか？ 三角縁神獣鏡とは、中国の神話や物語に登場する神や仙人、靈獣などが表現された鏡の中で、縁の断面が三角形にとがったもののことをいいます。『魏志倭人伝』(1)で、卑弥呼(2)が魏(3)の皇帝から送られたとされる銅鏡百枚が、この三角縁神獣鏡であったとする説も有名です。今回は、この三角縁神獣鏡が2面見つかった松阪の古墳、久保古墳(久保町・県指定史跡)について紹介します。

久保古墳は、古墳時代前期につくられた直径52.5mの円墳(4)です。古墳時代は前期・中期・後期・終末期の4期に区分されており、久保古墳は4期の中で最も

早い前期につくられました。ちなみに、船形埴輪が見つかった宝塚1号墳がつくられたのは中期なので、久保古墳は宝塚1号墳より早くにつくられたことになります。また、直径52.5mという大きさは、円墳としては南伊勢地域で最大規模を誇ります(5)。古墳というと埴輪を思い浮かべる方も多いと思いますが、久保古墳には埴輪は並べられていなかったと考えられています。

上で述べたように、久保古墳からは三角縁神獣鏡2面が見つっていますが、そのうち1面

は中国で作られ日本に運ばれてきた「舶載鏡」というもので、もう1面は日本で作られた「仿製鏡」でした。そして、興味深いことに、この舶載鏡と同じ型を使って作られた鏡(同範鏡)が、京都府の椿井大塚山古墳・岡山県の湯迫車塚古墳・静岡県の上平川大塚古墳という距離の離れた古墳から見つかっています。このように、距離の離れた古墳から舶載の同範鏡が見つかる理由として、当時の日本列島で大きな勢力を誇っていたヤマト王権が、中国の皇帝などと交渉を持って鏡を一括して入手し、さらに、その鏡を各地の首長に分配したことが考えられます。このことから、久保古墳にはヤマト王権と深い関わりのあったこの地域の首長が埋葬されたと考えられるのです。

現在、久保古墳の周辺は開発されて住宅街となっていますが、開発が行われるに当たり久保古墳に隣接する草山遺跡の発掘調査が行われました。そうしたところ、竪穴住居跡や掘立柱建物跡がそれぞれ100以上、方形周溝墓(6)が30近く見つかかり、久保古墳のすぐ隣に、弥生時代から古墳時代ははじめにかけての、大きな集落が存在したことがわかりました。草山遺跡が営まれた時期と久保古墳がつくられた時期が近いことを考えると、この両者には何らかの関係があるのかもしれない。(担当)



現在の久保古墳の様子

(1) 弥生時代末期の日本列島の様子を書いた古代中国の書物。邪馬台国のことなどが記載されている。(2) 『魏志倭人伝』に登場する邪馬台国の女王。(3) 古代中国の王朝。(4) 古墳の形のひとつ。上から見ると円形をしている。(5) ここでの南伊勢地域は、松阪市・多気郡・度会郡・伊勢市の範囲を指す。久保古墳の所在する金剛川流域には清生茶白山古墳という墳丘のなくなった古墳があり、その直径は約55mであったと推定されている。(6) 幅1mから2mの溝がめぐり一辺5mから20m程の四角形状の墓。弥生時代の墓の形のひとつ。
※今回ははにわ通信を書く際、『三重県史 資料編 考古1』(2005年、三重県)、『松阪市の指定文化財案内』(2006年、松阪市教育委員会)、『南伊勢の古墳』(伊勢・伊賀の古墳と古代社会) 八賀晋編、2010年、同成社)、『松阪市史 第2巻 資料篇 考古』(1978年、松阪市)などを参考にしました。

【冬季企画展「船形埴輪 - 魂を乗せ 舟は旅立つ -」を開催します!】

松阪市文化財センターは、2月9日(土)から3月17日(日)まで、はにわ館第2展示室にて冬季企画展「船形埴輪 - 魂を乗せ 舟は旅立つ -」を開催します。宝塚1号墳から見つかった船形埴輪には、それを、王の権力の象徴ととらえる考え方と、王の魂をあの世界へ送り届ける葬送の舟ととらえる考え方があります。今回の企画展では、後者の葬送の舟であるとの考え方にもとづき展示を行います。



宝塚1号墳出土 船形埴輪

本企画展には、宝塚1号墳の船形埴輪を研究する上で大変参考となった「船の絵が描かれた」箸付き楕円筒埴輪や、棺桶として使用された船形木棺などがやって来ます。また、企画展に合わせて、当館学芸員がミュージアムトークを2月9日13:30~14:30に行います。

皆さま、是非この機会にはにわ館へお越しください。ご来館お待ちしております!! (担当)

【2月 如月】

鈴の森公園の梅の花もほころび、寒さの中にも春のきざしが感じられる2月になりました。

2月の別名は「如月」ですが、春に向けて草木が生えはじめるから「生更木(きさらぎ)」という説や、寒さが残っていて衣を更(さら)に着る月ということで「衣更月(きさらぎ)」という説もあります。

立春から春を迎えて1年がはじまると考え、1年間を無事に過ごすために各地で節分にちなんだ行事が行われます。松阪市日野町にある「みろく院 善福寺」では、立春の前に厄除けをして良い年を迎えようと、2月3日に「星まつり」が行われ、ご祈祷や火渡り神事の後に、境内で「鬼払い豆まき」があります。豆まき・糀・恵方巻・福引せんべい…みなさんのご家庭では、立春をどのように迎えられるでしょうか？



文化財センターでは、冬季企画展「船形埴輪 - 魂を乗せ 舟は旅立つ -」が2月9日からはじまります。3月9日・10日には「勾玉づくり」のワークショップも予定しています。色づきはじめた鈴の森公園の梅を見つつ、是非、文化財センターにお越しください。(所長)

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

2月の休館日は、4日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)、
3月の休館日は、4日(月)、11日(月)、18日(月)、22日(金)、25日(月)です。
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】 入館料100円(18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

第2展示室 ■冬季企画展「船形埴輪 - 魂を乗せ 舟は旅立つ -」2/9(土)~3/17(日)

第2展示室 ■冬季企画展 ミュージアムトーク 2/9(土)13:30~14:30

【ギャラリー】 入場無料

第2G ■勢風盆栽展 2/1(金)~2/3(日)9:00~17:00 ※最終日は15:30まで

第1・2・3G ■嬉野文化協会 陶嬉の会展・嬉洋会展・芳墨会展 2/10(日)~2/17(日)9:30~17:00

※10日は嬉洋会展のみ13:00から、最終日は15:00まで

第1・2・3G ■公民館まつり作品展 2/22(金)~2/24(日)9:00~16:00



バーコード読み取り
(文化財センター情報)